

【お詫び】小児外科：手術関連死亡・術後合併症の予測値を含めた

Feedback システムの機能不具合のご報告

平素より NCD の症例登録にご協力いただきまして、誠にありがとうございます。

2020 年 11 月 26 日にリリース致しました手術関連死亡・術後合併症の予測値を含めた Feedback システムの機能につきまして『リスク因子の集計結果』の一部の術式の集計に不具合があったことが分かりました。

利用者の皆様にはご迷惑をお掛けし大変申し訳ございません。深くお詫び申し上げます。本不具合は、2 月 10 日(木)のメンテナンスにて修正を予定しております。

<該当箇所>

『施設診療科の患者背景とパフォーマンスの全国比較』内の『リスク因子の集計結果』
イレウス手術 ～ 気管形成術（気管狭窄症手術） の集計値

<事象>

登録された NCD 術式が日本小児外科学会の規定したリスク因子となる術式（以下、小児外科術式）の分類に複数紐づく場合、

本来『リスク因子の集計結果』ではそれぞれの小児外科術式の箇所でカウントされるどころシステムの不具合により、1つの小児外科術式でしかカウントされておりました。

※NCD 術式と小児外科術式が 1 対 1 で紐づく術式の場合、今回の不具合には影響されません。

例

登録された NCD 術式：OP0101 肺切除術（肺葉切除）（胸腔鏡下）

NCD 術式 OP0101 に紐づく小児外科術式：3. 悪性腫瘍根治術（全摘・亜全摘）

7. 肺切除術（部分切除、区域切除、肺葉切除）

上記の場合、2つの小児外科術式に属しており、本来は「3. 悪性腫瘍根治術（全摘・亜全摘）」と「7. 肺切除術（部分切除、区域切除、肺葉切除）」のどちらでもカウント対象になるところ

「3. 悪性腫瘍根治術（全摘・亜全摘）」でのみ集計されている状態です。

複数小児外科術式に属する場合は、下記のシステム内のリスト順の早いものが優先されてカウントされていました。

術式順は下記の通りです。

<システム内小児外科術式リスト順>

1. ヒルシュスプルング根治術
2. 鎖肛根治術
3. 悪性腫瘍根治術（全摘・亜全摘）
4. 胆道閉鎖症根治術
5. 胆道拡張症根治術
6. 気管形成術（気管狭窄症手術）
7. 肺切除術（部分切除、区域切除、肺葉切除）
8. 腸回転異常症手術（含中腸軸捻転）
9. 漏斗胸手術（直視下・内視鏡補助下）
10. 噴門形成術（直視下・内視鏡下）噴門機能再建（直視下・内視鏡下）
11. 消化管穿孔手術
12. イレウス手術（含む腸管癒着剥離術）

上記12術式に紐づくNCD術式の詳細につきましては、Feedbackシステムの機能内、『Risk Calculator』に掲載しております資料【小児外科：リスクモデル補足資料別紙】に記載しておりますので、ご確認下さい。

なお、RiskCalculatorやリアルタイムフィードバック、パフォーマンス指標などのリスクの計算自体は正しく、予測死亡率・予測合併症発症率には影響はないことを確認しております。

この度は登録施設皆様にご迷惑お掛けしましたこと、心より深くお詫び申し上げます。引き続き、NCD症例登録にご協力賜れますよう、何卒宜しく願いいたします。